

公益社団法人 日本フェンシング協会
社員総会議事録

- 1 総会の種類 定時社員総会
- 1 開催場所 東京都北区西が丘3-15-1
国立スポーツ科学センター研修室A
- 1 開催日時 平成27年6月14日 午後1時30分
- 1 総社員数 49名
- 1 総社員の議決権の数 49個
- 1 出席した社員数 47名
うち、委任状出席 16名、書面によって議決権を行使した者 5名
- 1 出席した社員の議決権の数 47個
- 1 出席理事
〈副会長〉星野正史、井原健三、吉澤博通
〈専務理事〉山崎豊
〈常務理事〉伊藤一人、江村宏二、加藤裕子、宮脇信介
〈理事〉井口加奈子（議事録作成者）、岡崎直人、釜井昭人、徳南堅太、中田玲子
- 1 出席監事
〈監事〉清水至

定刻、役員規程第7条第2項に則り会長（代表理事）に代わって副会長星野正史が議長となり、開会を宣した。議長は、本日の定時社員総会が定数を満たしたので有効に成立した旨を告げ、議案の審議に入った。

議事の経過の要領及び議案の審議の結果

1 緊急動議

会場より会長不存在的の総会は不成立である旨議場に諮りたい旨の緊急動議が出された。議長は、本動議につき審議するか否かを議場に諮ったところ、審議を可とする者が過半数に満たなかったため否決された（質疑応答及び審議の結果は添付資料1）。

2 審議事項

第1号議案 2014年度事業報告及び決算の承認の件

議長は、2014年度（平成26年度）（自平成26年4月1日至平成27年3月31日）における事業状況の報告を行いたい旨述べ、下記の書類を提出して、山崎豊専務理事より事業報告及び附属書類により詳細な説明が行われた。会場より質問が出され、質疑応答が行われた（質疑応答の詳細は添付資料2(1)）。議長がその承認を求めたところ、過半数以上の賛成が得られたので承認可決した。

- (1) 貸借対照表
- (2) 正味財産増減計算書
- (3) 正味財産増減計算書内訳表

第2号議案 理事の任期満了に伴う改選の件

議長は、理事全員が本定時総会の終結と同時に任期満了し、退任することとなるので、その改選の必要がある旨述べ、候補者リストを提示したところ、会場より質問が出され、質疑応答が行われた（質疑応答の詳細は添付資料2(2)）。議長が下記の者の就任につきその可否を諮ったところ、過半数以上の賛成が得られたので下記のとおり可決確定した。

記

理事	星野	正史	(重任)
理事	井原	健三	(重任)
理事	伊藤	一人	(重任)
理事	江村	宏二	(重任)
理事	加藤	裕子	(重任)
理事	宮脇	信介	(重任)
理事	井口加奈子		(重任)
理事	釜井	昭人	(重任)
理事	岡崎	直人	(重任)
理事	小松	眞一	(就任)
理事	山本	正秀	(就任)
理事	齊田	守	(就任)
理事	上津	さくら	(就任)
理事	東	伸行	(就任)
理事	甲斐	正彦	(就任)
理事	末松	英司	(就任)
理事	田中由美子		(就任)
理事	三野	昌俊	(就任)
理事	米丘	健	(就任)
理事	頼藤	俊夫	(就任)

以上

3 報告事項

第1号 2015年度補正予算について

議長は、2015年3月の総会で提示した予算案についての補正予算案を報告したい旨述べ、山崎豊専務理事より詳細な説明を行った。

第2号 強化関係

議長は、2016年リオ・デジャネイロ オリンピック出場権獲得方法について説明したい旨述べ、江村宏二常務理事より、日本のチーム及び個人の世界ランキングにおける順位状況について詳細を説明した。

第3号 各委員会報告

議長は、国体運営委員会から報告がある旨述べ、伊藤一人常務理事及び釜井昭人理事より詳細を説明したところ、会場より質問が出され、質疑応答が行われた。

第4号 その他

議長は、その他の報告事項につき、各担当理事に詳細な説明を求め、理事らより以下の説明を行った。

- (1) 国際委員会 (加藤裕子常務理事)
 - ① 国際貢献事業スポーツ・フォー・トゥモローについて
 - ② Club Movement Initiative について
- (2) 広報委員会 (宮脇信介常務理事)
昨年度の広報活動についての報告
- (3) 国際大会の代表選考への意見書 (江村宏二常務理事)
質疑応答の詳細は添付資料3

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨述べ、午後4時45分閉会した。
以上の決議を明確にするために、この議事録を作成し、議長及び議事録作成者がこれに記名押印する。

平成27年6月14日

公益社団法人日本フェンシング協会

議長理事 星野 正史

理事 (議事録作成者) 井口 加奈子

<補足資料>

第 28 回ユニバーシアード大会選手選考について
—平成 27 年 6 月 14 日開催の社員総会での説明の補足—

平成 27 年 6 月 14 日に開催された社員総会において、第 28 回ユニバーシアード競技大会日本代表選考会の選考結果に関する説明を行いました。が、時間的制約もあり十分な説明ができませんでしたので、ここに補足して説明させていただきます。

まず、今回のユニバーシアード大会の選手選考については、「2015 年度（平成 27 年度）第 28 回ユニバーシアード（大韓民国／光州）フェンシング競技大会日本代表選手編成方針及び選考基準」（以下「代表選手選考基準」といいます。）に基づき行いました。

（参考）「2015 年度（平成 27 年度）第 28 回ユニバーシアード（大韓民国／光州）フェンシング競技大会日本代表選手編成方針及び選考基準」より抜粋

5. 代表選手選考基準

1) 選考対象選手

日本代表選手は、「原則として現役大学生とし、将来オリンピック等国際大会でメダルが期待できる者とする」を前提とし、今後も競技を継続する者に限る。

2) 代表選手選考方法

① 第 28 回ユニバーシアード（大韓民国/光州）日本代表選考会を実施し、上位 2 名・推薦 1 名（男子 2 名）を日本代表候補として選出する。

最終決定については日本フェンシング協会理事会で決定する。

② 選考会実施日及び会場

日時：平成 27 年 4 月 18 日（土）男子フルーレ・女子サーブル・男子エペ

平成 27 年 4 月 19 日（日）女子フルーレ・男子サーブル・女子エペ

（以下略）

2) 代表選手選考方法の①の推薦選手の選考は、各種目のナショナルチームヘッドコーチを中心にアシスタントコーチとともに行われました。ナショナルチームヘッドコーチ及びアシスタントコーチは選考会を視察したうえで推薦選手の選考を行いました。

男子サーブルについては選考会の 3 位及び 4 位の選手が、女子 3 種目については選考会の 3 位の選手がそれぞれ推薦選手として選考されました。

男子フルーレ・エペについてはそれぞれ下記の理由により各推薦選手が選考されました。

記

(1) 男子フルーレ

オレグヘッドコーチ、福田コーチ、敷根コーチとで協議を行った。

オレグヘッドコーチの基本的な考え方は、JISSの練習拠点において強化を図り、ワールドカップ等に派遣することなどを視野に、継続的に指導できる選手を選考し派遣する必要があるということであった。過去のユニバーシアード選考において、せっかく代表選手に選ばれたのに、大学卒業とともに引退してしまう選手が多くいたことも背景にある。オレグヘッドコーチの意見としては、大石利樹は、過去にインカレ優勝、ワールドカップ64入りなど、若手で今後の活躍に期待ができる、本戦における準備も十分にできているというものであった。また、野口凌平についても同様に、ジュニアカテゴリーで松山に次ぐ最高ランキングにあり、若手で今後の活躍に期待がかかる、練習環境が十分であり本戦における活躍が期待されるということであった。

福田コーチ、敷根コーチとも当初は順位どおりの選考を提案したが、最終的にはヘッドコーチの考えを重視することで残り2名を推薦することとなった。

(2) 男子エペ

サーシャヘッドコーチ、本間コーチ、山本コーチとで協議を行った結果、フルーレのオレグコーチの考え同様、JISSの練習拠点において強化を図り、ワールドカップ等に派遣するなど、継続的に指導している選手2名を推薦することとした。

成田遼介は、国際大会において実績があり本戦において活躍が期待できる、また、北村直之は、優勝した武田に惜敗したため予選会は29位であったが、国際大会の経験は豊富であり本戦において活躍が期待できるという結論になった。

以上

<別紙>添付資料

1. 緊急動議に関する質疑応答

社員：代表理事がいない以上本総会は不成立ではないか。この場で、総会の成立について問いたい。

議長：この動議について議題として審議するか否かをまずは議場に問いたい。

可とする者：10名

それ以外：12名（不可とする者1名）

議長：以上のとおりであるので、本動議は審議しないこととする。

2. 審議事項

(1) 第1号議案についての質疑応答

2014年度事業報告について

社員：会員の登録数を見ると、2015年は減少している。これは登録費の値上げが原因ではないか。近年、大会の参加料も高くなっている。道具も高くなっている。もう少し底辺の拡大も考えてほしい。

社員：社会人の登録も減っている。その多くは試合に出ておらず、OBとして支部に協力したいという人たちである。支部登録が昨年度は43人だったのが、今年度は20人になってしまった。支部に返ってくる金は変わらないとすれば、支部登録だけでいいのではないかということになる。それなら丸々支部の金になる。FJEにとって会員数が減るといのはどうなのか。

社員：登録規程2条は、支部の「事業に参加する者」はすべて登録しなければならないとし、8条が罰則を定めている。現実問題として、支部がやっている大会で、登録しているのかどうかチェックできるのか、罰則規定は適用できるのか、疑問がある。こういう規程も作っただけというのなら、作らない方がよい。さらに、14条は、改廃を理事会決議事項としている。支部に関することも理事会で決めるのか。総会で決めるべきではないのか。

社員：補正予算案が出されているが、社会人の登録が増えないとこのような数字にはならない。

専務理事：2008年にも登録料の値上げをして、そのときも会員数が減ったことがあった。今回のことも予測できた。前回の総会でも議論した。10年前にはやっていなかったような事業が現在はたくさんある。助成金をとって、会員には安くできるようにやっている。委託事業はただでできるわけではなく、理事や事務局費がかかる。支部だけに負担をかけようとしているわけではない。

議長：正会員の生の声を上げていただいて考えて行きたい。

<別紙>添付資料

社員：事務局の充実とは具体的にはどのようなになっているのか。

事務局長：スポンサーからの支援、人材派遣などを活用している。

社員：人数はどうなっているのか。

専務理事：以前は、正社員1名、パート2名でやっていたが、現在は、正社員2名、出向社員1名、派遣1名と隔日のバイト3名である。

社員：スポンサーからの出向というのはどこか。

事務局長：京王観光である。

社員：事務局担当業務を支部に示してほしい。

社員：JSC や JOC の返還金という話があるが、以前ホームページで公開されていた改善計画書がホームページからなくなっている。今、改善計画書に従ってやっているのか。

理事：やっている。

社員：全日本選手権について協会はどう考えているのか。また、個人選と団体戦を切り離した理由は何か。

常務理事：全日本は日本一を決める大会である。

専務理事：国体開催地が全日本を行うという原則があるが、毎年のように、開催地から共同開催は負担が大きいという声が聞かれた。強化という観点から考えると、トップ選手が出る大会ということになるが、運営費用を考えるとできるだけ多数の参加が望ましい。

常務理事：今回で分離開催の団体戦は5回目を迎える。出場枠が決まらないという問題があり、学連に追加出場者を依頼した。前年度の実績を加味しつつ47枠を確定したい。

社員：全日本選手権はどういう大会なのか趣旨が明確ではない。その年の最高の選手が出るべきではないのか。国体のリハーサルなのか。前年度の成績を前提にして決めるとしても、学生が減らされる理由はない。チャンピオンチームが最強のチームかということとそうでもない。どういう風に枠組みを決めているのか。学連だけが減らされた理由は何か。

常務理事：インターハイ上位のチームを団体戦に出させる。これは、フェンシングの普及ではなく強化ということである。

専務理事：全日本の開催はもともと普及目的ではない。しかし、国体に学生が出場すると社会人が出られる大会がない。そのようなこともあって、大学を卒業するとフェンシングを止めてしまう。そこで、社会人が参加できるように全日本の人数を増やす。普及は強化につながる。

社員：理事会はしっかり議論しているのか。

議長：全日本選手権の個人戦・団体戦統合については理事会でも議論を行っている。結論には至っていないが今後も引き続き検討する。

社員：全日本は日本一を決める大会なのに、タイトルの下に「国体リハーサル」と書かれると色あせてしまう。「国体リハーサル」という名をうつことはいかがなものか。また、団体・個人を一緒に決めるのが理想ではないか。今から変えられないか。

常務理事：いろいろな問題があり、1つ変えると他も変えざるを得なくなる。1つ1つ検討して来年度以降考えたい。

社員：個人戦をテレビで見たが、ほとんど観客のいないスタンドが映って恥ずかしかった。有料ということもあるのか。人の入るところで本当のフェンシングを盛り上げてもらいたい。また、12月は忙しい時期である。数日おいて会社を離れるのは選手にとってハンデになるのではないか。時期も考えてほしい。報道に関しても、試合の記録が新聞などで見つからない。広報で最低限新聞に掲載するようにしてほしい。

議長：テレビについては改善する。

常務理事：協会には、マスコミ対応のノウハウがない。昨年度いろいろやってきた。フェンシングそのものの認知度を上げる必要もある。

2014年度決算報告について

社員：貸借対照表の「未収金 40,677,880円」の内訳は何か。

事務局長：遠征費、助成金、合宿費、スポンサー収入などである。遠征費については、個人に対して帰国後請求書を出す。助成金は5月28日付で入っている。合宿費の一部は清算されている。スポンサー収入は既に入っている。

社員：正味財産増減計算書の「給料手当」の内訳は何か。

事務局長：事業費の方は、外国人コーチの給料で、管理費の方は正社員やアルバイトの給料である。

社員：JOCの格付けが下がった原因は何か。

常務理事：男子フルーレがBランクからCランクになった。査定の要素は、①オリンピック2大会メダル、②アジア大会40年振りの金メダル、③ワールドカップのメダルがあったものの、④世界選手権の結果が悪かったということである。これは1年なので、来年はまた査定がある。

監事：決算報告として、まず、モニタリングの対象とすべき事項としては以下の点がある。

- 1 事業の準備を丁寧に進め、不満がなくなるようにする
- 2 内容も早く分かるようにする

改善すべき事項は次のとおり

- 1 理事会が毎月のように行われているが、議案の提出時期を早めて理

<別紙>添付資料

事が事前に検討し、理事会で十分な議論ができるようにすべき
2 年度計画、予算の精度を高めること
平成27年3月14日の総会で登録料の値上げをした以上、財務を健全化し、運営に努めること、社員の理解を得ることが必要である。
現状では、協会運営について著しく不当ということはない。
決算書は、飯沼会計の指導を受けながら事務局が作成した。これについて重大な指摘すべき事項はない。合理的に作られた決算報告書である。

(2) 第2号議案についての質疑応答

社員：選挙の投票結果が発表されていない。数字を明らかにされたい。

事務局長：結果は以下のとおりである。

候補者名	得票数	当選
東 伸行	22	○
伊藤 一人	16	○
江村 宏二	15	○
田中 由美子	15	○
三野 昌俊	15	○
米丘 健	15	○
岡崎 直人	13	○
頼藤 俊夫	13	○
末松 英司	12	○
甲斐 正彦	8	○
佐藤 友則	7	
山崎 豊	6	
辻村 眞一郎	4	

社員：立候補届を出したあと、選挙になるという連絡もなく、また、選挙の結果の報告もなかった。立候補者に結果が通知されたのはずっと後になってからである。正会員にだけ知らせるのではなく、理事候補にも送るべきではないか。

監事：次回はマニュアルを決めて行う。周期的に来るものについては、余計なことで総会が滞ることがないように要望したい。

社員：内閣府の意向に沿ってということで、公選ではないと聞く。内規としてやったということか。

監事：そうである。

社員：総会で不信任案が出たらどうするのか？

<別紙>添付資料

監事：欠けたままになる。

社員：推薦理事を決めるのに、正会員の一票はないわけだが、推薦理事はどうやって決まったのか。

議長：オリンピック・パラリンピックを見据えつつ、機構改革委員会メンバーを中心に決めた。星野（敏）会長の意向である。

社員：10名を推薦した理由は何か。

専務理事：まだ協会の改革が終わっていない。しかし他方で昨年選挙をやると言った。そこで、選挙で選ぶのは半分にさせていただきたいということが理事会で決まった。

社員：前回の総会では、総会で選挙を行うということであった。これは修正ということによいか。

議長：修正する。

社員：選挙で選ばれた人の中で、本日の連絡をもらっていない人がいる。

社員：当選者には文書が後で来ると思っていたが、連絡がない。

事務局長：連絡はした。

社員：理事の選出規定を理事会で改廃できるというのはおかしくないか。

機構改革委員：昨年内閣府から言われたのは、理事は少人数でスリムにし、業務は委員が行うということであった。

監事：内閣府からは、本人に自覚がなければ、協会の判断に委ねるといわれた。

議場内における推薦理事候補者の個別信任の結果

候補者名	不信任
井口 加奈子	8
加藤 裕子	10
小松 眞一	9
星野 正史	8
宮脇 信介	10
山本 正秀	14
齊田 守	15
井原 健三	10
釜井 昭人	2
上津 さくら	1

この結果により、信任票と議長に委任された16票の合計がいずれの推薦理事候補者についても出席社員総数の過半数を占めていることから、推薦理事候補者は全員賛成多数により選任された。

3. 国際大会の代表選考への意見書について

岐阜県フェンシング協会より、平成27年6月8日付けで提出された「国際大会の代表選考への意見書」について、理事会から各項目についての説明と質疑応答が行われた。

(1) 男子フルーレ3位・4位選手が外れ、5位及び6位の選手が繰り上がり、同男子エペ3位・4位選手が外れ、5位及び29位の選手が繰り上がった理由について

常務理事：選考要項のとおり1位、2位の選手は順位どおり選考し、残りの2名枠については、NTC強化拠点において計画的かつ継続的に強化を図っている将来有望選手の中からヘッドコーチが推薦した。国内大会の成績は必ずしも海外での試合結果に結びつかない場合が多く、普段から選手とコミュニケーションをとっているヘッドコーチには選手の適性を判断することができると考えている。

社員：選考会はあくまで1、2位にならなければならない、早く負けたとしても結果を尊重するのがベストではないか。コーチとのコミュニケーションというが、むしろそのようなものは選考に入ってはいけないものではないか。やっている選手は納得がいかないのではないか。

常務理事：コーチとのコミュニケーションというのは、そういう意味ではない。あくまで選手の資質をみるということである。継続して指導していかなければ世界に出てもなかなか勝てない。

社員：29位の選手が選ばれているが、ワールドカップでも同じようなことを考慮するのか。

常務理事：それはないと思っている。

(*なお、本報告事項に関しては、別添のとおり補足資料があるので参照されたい。)

(2) 「今回のユニバーシアード大会は、翌年にリオ五輪を控え重要な位置付けの大会であるにもかかわらず1回の選考会で代表選手を決定している」という点について

常務理事：今回のユニバーシアード大会派遣の考え方として、JOC同様に将来オリンピックで活躍が期待される大学生等中間層選手の国際競技力向上を目的として選考会を行った。残念なことだが、近時大学生等の競技力の低下を感じている。そこで、1発勝負で「上位2名に入れば日本代表として派遣」選考することで学生の意識の高揚を図り、一人でも多くの選手に国際大会を経験させることを意図とした。過去の選考方法としては、上位8名を選出し、数回の合宿により選手を選考した経緯もある

<別紙>添付資料

が、大学卒業後に引退する選手が殆どであった。今後はコーチと協議をしながらオリンピックに繋げる選考方法の改善に努める。

社員：コーチの資質も問題にならないか。その場で選手に言うというのは、コーチの資質に関わる。そのようなコーチを外すことは考えないのか。

専務理事：それは理事会で決めることである。選手選定は定められた手続に則り行うが、もし不備があればその責任は理事会にある。

(3) 「2015年度世界選手権大会の代表選手の選考基準についても、前記同様で関係者の関心は非常に高いものがある。よってユニバーシアードの選考と同様な不明瞭な選考基準を残したまま選考を行うことは、今回以上の問題を惹起する懸念がある。この点につき、関係者の納得の得られる選考基準を示されることを望む」という意見について

常務理事：今後は推薦枠の条件や根拠なども掲載して、各支部が納得できるように掲載していく。

社員：要項の段階で選考基準を明記すれば問題は起きない。

(4) 「平成27年度のジュニア・カデ部門の海外派遣の基準となる年間のランキング戦の予定が協会 H/P で公開されていない中、一部でランキング戦が実施されているようである。地方での事業との重複開催を極力避けるためにも、年間事業計画の早い時期での公表及び、公平を期すために公表前のランキング戦を無効とされたい」との意見について

常務理事：大会要項には明確にランキング対象試合と記載があるが、今後は、年間計画等についても早期に掲載していく。

社員：ランキング戦を無効とまで言わないが、今後は早期にわかりやすく掲載されたい。

以上